

目次

- 1 財務ハイライト
- 2 株主の皆様へ

MOL nextは、着実に成果を上げつつあり、その最終年度に当たる2004年3月期の最終目標は達成可能であると確信しています。



The Answers

6 What?

2002年度の定期船事業は運賃下落の影響を受けましたが、急速な業績回復に向けた準備は整っています。

8 How?

長期的な視点に立って見ると、定期船ビジネスは外航海運業の中でもっとも有望な事業のひとつです。

10 When?

MOL nextを引き継ぐ次のステージにおいて、エネルギー関連事業はさらに大きな収益の柱となります。

12

Where?

自動車、ドライブバルク等の分野で、当社は今、中国経済の成長によって次々に生み出されるビジネスチャンスをつかまうとしています。

14 Why?

バランスシートの改善に重点を置く財務戦略が、当社グループの収益性を向上させる上で大きな効果を上げています。

16 Who?

取締役および監査役、コーポレートガバナンスに対する取り組みと体制を紹介します。

18 執行役員

19 営業概況

20 連結業績概況

連結セグメント別に業績の概況をまとめています。

22 外航海運業

連結業績の大半を占める外航海運業の事業概況、2002年度の業績をレポートします。

24 マーケットデータ

世界の海運業界における商船三井のポジションを船舶種類別にご紹介しています。

26 環境保全に対する取り組み

総合輸送を担う企業として、当社は海洋・地球環境の保全を経営の最重要課題のひとつに掲げ全社一丸となって取り組んでいます。

28 ポートマップ

商船三井は世界の300以上の寄港地を結び付けています。ここではポートマップと世界各地の当社事務所をご紹介します。



30 連結貸借対照表

32 連結損益計算書

33 連結株主資本計算書

34 連結キャッシュ・フロー計算書

35 連結財務諸表に対する注記

51 アニュアルレポートの作成と監査の位置付けについて/ 公認会計士の監査報告書

52 商船三井グループ

54 国内・海外事務所

55 株主情報

予想および見直しに関して

このアニュアルレポートには、商船三井の将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見直しの記述が含まれております。これらの記述は過去の実事ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定および所信に基づく見込みです。また経済動向、海運業界における厳しい競争、市場需要、燃料価格、為替レート、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を際限なく含んでいます。このため実際の業績は当社の見込みとは異なるかもしれないことをご承知おください。

表紙：表紙の写真は、2003年3月に竣工した30万トン型新造ダブルハルVLCC「lwatesan」です。この船は、当社にとって13隻目のダブルハルVLCCで、水深の浅い場所での積載量を極大化したマラッカマックスと呼ばれる新設計船です。